

「上山城」からのたより 桜春・第71便

水害発生の子兆

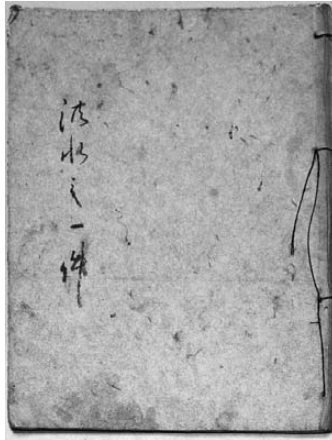
時期的に少々気は早いのですが、今回は水害に
関するお話を一つ。

もはや毎年の恒例行事のように水害に悩まされ
ているなか、「備えあれば憂いなし」という言葉の
如く、事前に備えをしておくことが求められてき
ています。防災グッズの

用意・避難経路や場所の
確認等も大事なことで
すが、水害発生の予兆を
知っておくことも重要な
「備え」の一つといえる
でしょう。

写真にあるのは、文政
七（一八二四）年八月、

当時の村山郡一帯に大き
な被害をもたらした、いわゆる「申の洪水」発生
時の山形城下の様子を記録した文書です（作者…
梅園主人湯嶺／作成年月（推定）…文政七年八月／
所蔵先…上山城）。そこには、洪水発生の予兆とし
て、次のような自然現象が起きていたことが記さ



れています。

八月初め、かなたより山なり震動する事折々也
（中略）十三日夜亥刻計り、東方蔵王御嶽にあつく
迅雷一声く、大雨降りいたし、恰篠をつくがせ
し、電光わめき、夜もすがら晴れず、翌十四日に
至り、是に加ふに大風ヲ以てす、午刻に馬見崎
出水く（※ルビは原文のママ）

【現代語訳…八月初旬（現在の暦だ
と八月下旬）から山鳴りのような震
動が頻発し、十三日には蔵王に雷・
大雨が終夜降り注ぎ、加えて翌十四
日には強風が吹き始め、その日の午
の刻（正午前後）、ついに馬見ヶ崎
で川水が溢れ出た。】

つまり、この文書には、「山鳴り
のような震動」の頻発が、大雨、そ
して、その後の洪水発生の予兆であ
ったと記されているのです。真偽のほどはともか
く、先人が書き残してくれた知識、活かすか・活
かさないかは貴方次第です。

公益財団法人上山城郷土資料館

学芸員 長南伸治

【常設展示室より】二階松平コーナーに、藤井松平氏関係史料（忠国く信通時代）を展示しています。